



## 1 課題

小規模校では児童生徒数の減少により、子ども同士が協働で学ぶことが困難となり、対話や議論を通じて視点を広げながら個人や集団としての意見を形成したり、多人数を相手に説明したり発表したりする活動が難しくなっている。

## 2 概要

広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）が開発した「のん太の学び場」（東広島市地域学習用デジタルコンテンツ）と市教育委員会が作成した小学校社会科副読本を効果的に連携させた広域交流型オンライン学習を実施する。

大学

草原 和博

広島大学

大学院人間社会科学研究所 教授



市担当課

×

教育委員会

学校教育部教育総務課



▲オンライン地域学習の様子



▲東広島市内はもとより、全国各地からの中継を交えながら、地域の課題について対話的・双方向的に学ぶことができる。

## 3 研究成果 手法等の構築

東広島市内の小学校・学習対象となる施設・広島大学等をオンラインでつないだ遠隔授業を実施した。令和5年度は延べ約3,000人の児童生徒が参加した。社会参加意識の向上やデジタル公共圏の構築が確認された。

## 4 今後の展望・現状 担当課で事業実施

令和5年度以降は指導課が担当している。令和5年8月に内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期」に採択され、公共的対話のためのカリキュラムの開発、本授業に保護者・地域人材・不登校児童生徒が参画できる社会基盤の開発、離れた教室の意見を自動で収集・分類するAI学習支援技術の開発等、これまでの研究の深化・発展を図っている。令和6年度も継続して遠隔授業を実施し、多様な価値観を持つ子どもや市民等がオンライン空間を介して対話を行い、協働して課題解決や社会づくりに参画する教育システムのモデル化と全国展開を推進している。